

公表

事業所における自己評価結果

事業所名		公表日			
放課後等デイサービス・保育所等訪問支援ピコルア		令和8年2月16日			
	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点
環境・体制整備	1 利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	6		静養室、発達支援室と区別ができるようになっており、スペースは余裕のある状態での対応を行っている。	
	2 利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	6		人員基準及び加配配置の児童指導員数の配置数は満たしている	
	3 生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	6		障害の特性に応じた設備等は、標準であると解釈	
	4 生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	6		消毒清掃は毎日行っている	
	5 必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	6		個々の対応が可能である環境である。	
業務改善	6 業務改善を進めるためのPDCA サイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画しているか。	6		子の状況の振り返り、その課題を朝のミーティングのときに行っている。	
	7 保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	6		新規開設であるが、保護者アンケートを実施している。	
	8 職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	6		全職員間で、児童に対する意見等を集約し、活動に反映している。	
	9 第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。		6		現状第三者による外部評価は受けていない。今後検討する。
	10 職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	6		eラーニングの活用や、外部研修後の伝達講習を行い、知見を共有している。	
適切な支援	11 適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	6		事業所内への掲示、およびHPやSNSを通じて活動内容を可視化している。	
	12 個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか。	6		入所時の面談に加え、日々の観察から得た情報をケース会議で精査している。	
	13 放課後等デイサービス計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	6		児発管だけでなく、指導員も交えた会議で多角的な視点から計画を検討している。	
	14 放課後等デイサービス計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	6		支援の合間のミーティング等で計画を常に意識し、一貫した対応を徹底している。	
	15 こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	6		標準化されたチェックリストを用い、客観的な発達段階の把握に努めている。	
	16 放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	6		「本人・家族・移行・地域」の視点を網羅し、具体的な達成目標を立てている。	
	17 活動プログラムの立案をチームで行っているか。	6		特定の職員に偏らず、各担当が意見を出し合ってプログラムを構成している。	

援 の 提 供	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	6		季節行事や創作活動など、変化に富んだメニューを月替わりで企画している。	
	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成し、支援が行われているか。	6		集団生活の適応だけでなく、個別の特性に合わせた静かな活動時間も確保している。	
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	6		毎日の始業前ミーティングで、その日の役割分担と支援の留意点を確認している。	
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	6		支援終了後にヒヤリハットや気づきを即座に共有し、翌日の支援に活かしている。	
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	6		連絡帳や日報をデジタル化（または整理）し、支援の検証が容易な体制にしている。	
	23	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	6		新規開設の為、状況の変化に応じて随時見直しを行う予定。	
	24	放課後等デイサービスガイドラインの「4つの基本活動」を複数組み合わせ支援を行っているか。	6		健康・生活、運動・感覚、認知・行動、言語・コミュニケーションをバランスよく配置。	
25	こどもが自己選択できるような支援の工夫がされている等、自己決定をする力を育てるための支援を行っているか。	6		遊びや活動の際、複数の選択肢から子供自身が選ぶプロセスも大切にしている。		
関 係 機 関 や 保 護 者 と の 連 携	26	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	6		相談支援専門員との連携を密にし、事業所での様子を会議で適切に伝えている。	
	27	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	6		協力医療機関を定め、緊急時の対応フローを職員に周知している。	
	28	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、こどもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っているか。	6		学校からの連絡帳や電話連絡を通じ、下校時刻や学校での様子を共有している。	
	29	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか。	6			未就学児のお子様に関して、契約となった場合、今後、保護者同意の元、情報共有を行わせていただく。
	30	学校を卒業し、放課後等デイサービスから障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか。	6			本年度は、障害福祉サービス移行の生徒はいないが、その際は引き継ぎ資料の準備を行う予定である。
	31	地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要等に応じてスーパーバイズや助言や研修を受ける機会を設けているか。	6			スーパーバイザーとの対応、接点は現状ではない。今後検討課題である
	32	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会があるか。	6			現在地域の公園等にて遊ぶことはあるが、児童館等との交流はないため検討課題である。
	33	（自立支援）協議会等へ積極的に参加しているか。	6			現在、地域自立協議会には参加していないが、研修等充実を図るために来年度は計画をする予定。
	34	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	6		送迎時の積極的なコミュニケーションや連絡帳を通じて、日々の成長を伝えている。	
35	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム（ペアレント・トレーニング等）や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	6		面談時に家庭でできる関わり方の助言や、専門情報の提供を行っている。		
36	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	6		重要事項説明書を用い、利用料金や苦情受付について契約時に丁寧に説明。		
37	放課後等デイサービス提供を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	6		子供の表情や行動を注視し、言葉にならないニーズを汲み取る支援を重視。		
38	「放課後等デイサービス計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から放課後等デイサービス計画の同意を得ているか。	6		計画案を提示し、保護者の希望を反映させた上で署名を頂いている。		

保護者への説明等	39	家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	6		随時、個別面談や電話相談に応じ、保護者の心理的負担の軽減に努めている。	
	40	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機械を設ける等の支援をしているか。		6		今後、保護者どうしがお互いの悩みを聞けるような会を開いていきたい。
	41	こどもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	6		苦情受付窓口を掲示し、意見を言いやすい雰囲気づくりを心がけている。	
	42	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	6		新規開設の為、今後事業所の活動状況をオープンにする。	
	43	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	6		鍵付き什器での保管やPCのパスワード管理を徹底している。	
	44	障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	6		視覚支援カード等を用い、情報が伝わりやすい工夫をしている。	
	45	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。		6		今後検討課題である。
非常時等の対応	46	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	6		防災・防犯マニュアルを整備し、定期的に避難訓練を実施している。	
	47	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	6		災害時等の対応計画を策定し、職員への周知を図っている。	
	48	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	6		契約時の調査票で既往歴やアレルギーを把握し、最新情報を適宜更新。	
	49	食物アレルギーのあるこどもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	6		家族の説明に基づき、提供するおやつ等の代替対応を徹底している。	
	50	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	6		散歩コースの安全点検や遊具の消毒など、安全管理計画に基づき実施。	
	51	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	6		安全点検の結果や訓練の様子を掲示物やお便りで保護者に周知予定。	
	52	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	6		発生時は記録に残し、会議で原因分析と対策を話し合っている。	
	53	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	6		虐待防止マニュアルを整備。	
54	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、こどもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか。	6		原則禁止を前提とし、やむを得ない場合の要件を重要事項説明書に明記。		